

第 2 回 ATI 研究奨励賞授与式および研究成果報告

既報(ATI ニュース 18 号)のように、第 2 回 ATI 研究奨励賞として竹井邦晴氏(大阪府立大学工学研究科 助教/2013 年度 ATI 研究助成採択)が選ばれました。

本賞の授与式は第 22 回研究報告会(2015 年 7 月 31 日開催)において行われ、理事長より賞状と記念品の授与および竹井氏による研究成果報告がなされました。

(研究テーマ)

『無機ナノ材料界面の電氣的解析とその大面積印刷デバイス』

竹井 邦晴 氏/大阪府立大学工学研究科助教

ATI 奨励賞を受賞して

大阪府立大学 竹井 邦晴

この度は、2015 年度 ATI 研究奨励賞を頂き大変光栄に思います。私は 2013 年夏から 1 年間本研究助成において、ナノ材料の界面解析とナノ材料を用いた大面積印刷技術の開発を行ってきました。実は 2013 年 4 月から教員として大阪府立大学に着任し、本助成が初めての外部研究資金であり、研究を進めるのにあたり必要な、研究の立ち上げから消耗品の購入まで様々な点で活用させて頂きました。お陰様で予定通り業績を積み重ねることができたと思っております。



さて私の研究は、フレキシブル基板上にセンサやトランジスタなどを印刷形成することで、将来のウェアラブルデバイス応用などへ向けた研究開発をしております。その中でも、無機ナノ材料を印刷形成することで、高性能且つ高い安定性を兼ね揃えた電子デバイスの実現を目指しています。特に次世代デバイス実現を目指し材料の提案、形成方法の開発、そしてデバイス応用としてプロトタイプを作製する点に焦点をあてています。このように材料からプロセス、応用という、これまで分野間の違いにより融合が困難であった材料工学、電気工学、機械工学、化学などの知見を応用したデバイス応用を目指しています。現状は予算などの都合によりデバイス応用に偏っていますが、今後は新規材料の探索及びデバイスへの最適化などにも注目したいと思っております。

今後の展望としては、国内外のデバイス研究者から「わっ!」と言われるような優れた特性を有した材料・デバイス実現へ向け日々研究を進めていきたと思っております。

最後に、本研究助成及び研究奨励賞選考に当たりご尽力頂いた本財団関係者及び審査員の皆様に厚く御礼申し上げます。